

演題 へ特別講演へ

プログラム

会長挨拶

一 蘭医、長崎浩斎の年譜記録……寺畑 喜朔(金沢市)

二 金沢初の私立病院

「集誠病院」について……多留 淳文(金沢市)

三 加越能文庫(文書)にみられる

医事史料、黒川良安関係史料……正橋 剛二(富山市)

四 金沢大学医学部解剖学教室

歴代教授の墓所と遺族……中村 俊雄(金沢市)

五 明治初期の衛生学書……橋本 和夫(金沢市)

六 皮膚科学者……土肥章司……長門谷洋治(豊中市)

七 草深甚四郎の伝記に記された「血留の法」と

アンブロアス・パレの外科書に見られる

「間接的皮膚縫合術」の伝来をうかがわせる

「金瘡書」について……加藤 豊明(金沢市)

八 『枕草子』の中の医学……白崎昭一郎(福井市)

九 白穂和尚著「夜船閑話」

巻上の紹介……加藤 豊明(金沢市)

特別講演

大野藩の医学……岩治 勇一(評議員)

例会記録

四月例会 平成三年四月二十七日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 アンブロアス・パレ像の作者ダヴィッド・ダンジエーと 大村 敏郎

一 『紅夷外科宗伝』等の金創跌撲図への、十七世紀ドイツ 蒲原 宏

外科書 Armentarium Chirurgicum の投影 唐沢 信安

一 済生学舎廃校後の私立医学校の流れ

六月例会 平成三年六月二十二日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 フロレントス・ナイチンゲールミュージアムの活動の 山根 信子

一端

一 三浦環と主治医三浦謙之助 我部 正彦

一 『金瓶梅』にみる中国医学と道教 吉元 昭治

例会抄録

木簡にみられる「医史学」的記述について

千葉県立中央博物館歴史科 樋口誠太郎

一、はじめに

木簡というと藤原京や平城京から発掘されたものだけと思われる様であるが、次の表1に示した如く戦前から、しかもかなり広範囲から出土している。しかも木簡は古代から中世までかな

り長い時代に亘って使用されていた。

しかし、紙の代わりとして、多量の木簡が発掘され、それが歴史研究上大きな意味をもったのは、昭和三十六年の平城京跡からのものと昭和四十一年の藤原京跡からのもの以後であらう。

平城京跡出土の木簡は奈良国立文化財研究所から『平城京発掘調査出土木簡概報』として報告書が刊行されているので御存じの方が多と思う。

私は、このような報告書がただ刊行されるだけでいろいろな研究に活用されないことを残念に思い、かつて昭和五十三年一月十七日の医史学会の例会で「医事資料としてみた古京出土木簡の研究」と題して、主として木簡やその削りくずに見られる薬草及薬物と推定されるものへ考察を試みた。今回はその延長線上に於て、その後どの様な新しい資料が発見され、それが医史学研究の一助となるかを、平城京と藤原京から発掘された木簡について、考究したものである。

二、医史学的視点から見た木簡の記述

『薬物請求の文書木簡』 榎原考古学研究所蔵藤原宮出土木簡

- (1) 受被_レ給_レ薬 (人力) 四兩 石三種 車前子一升 西辛一兩
多治麻内親王宮政人 正八位下 陽胡甥

注、木簡の中一種に文書的な形態をもつものがある。医史学的資料の木簡には、その役割から此の形態のものが多く、この木簡は藤原京の典薬寮があったと推定されるところから出土したので、典薬寮に

宛てたものである。奈良時代の貴人はこのように典薬寮に薬物を請求することができたのであらう。

- (2) 平城京出土木簡 昭和四十二年

死大初位下 秦忌寸□麻

注、官人として身分はあまり高くはないが、死去したことを記録した木簡のようである。

同 右 十一 昭和五十二年

- (3) 式部省召 中務省 陰陽寮

右大人舍寮 内薬司 右省

閏□月十六日

注、式部省からよび出された管下の役所の名称が記されている。

三、まとめ

今回の発表の要点は、いくつもの木簡の記述(ここにとりあげたものだけではないが)を例にとりあげ、これらの中に、1、薬物、2、医方、3、医師、4、人の死に関する記録、などが見られること、特に医方に関しては木簡の中に処方箋のような木簡もあり、薬物の名前と分量、調合の方法、服薬の方法などが記されていることなどをとりあげた。

私がおこにとりあげたのは、発掘された木簡のごく一部であり、さらに遣唐使船などでもたらされる中国医学との関連などにも目を通していく必要があると思われる。

(平成三年二月二十三日例会)